



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION

GBRC 性能証明 第 09-02 号 改 4 (更 1)

建築技術性能証明書

技術名称：ニューバースパイルⅡ工法
－先端翼付き鋼管を用いた杭状地盤補強工法－ (改定 4)

申 込 者：株式会社新生工務 代表取締役 神農 一求
愛知県名古屋市守山区小幡中 1 丁目 8 番 17 号

技術概要：本技術は、鋼管に 2 枚の半円形の拡底翼と、長方形の掘削補助刃を溶接接合した特殊部を鋼管に溶接接合し、この鋼管を回転させることによって地盤中に貫入させ、これを杭状地盤補強材として利用する技術である。
なお、本工法による補強地盤の支持力は、基礎底面下の地盤の支持力を無視して杭状地盤補強材の支持力のみを考慮することとしている。

開発趣旨：本工法は、拡底翼 2 枚を取り付けて支持力の増大を図るとともに、2 枚の拡底翼間にすき間を設けて開端とすることで掘削能力を高め、施工性の向上を図っている。

当法人の建築技術認証・証明事業 業務規程に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。なお、本証明は 2022 年 4 月 27 日発行の GBRC 性能証明 第 09-02 号 改 4 を更新するものであり、有効期間は、2028 年 4 月末日までとする。

2025 年 4 月 11 日

一般財団法人 日本建築総合試験所
理 事 長 川 瀬 博



記

証明方法：申込者より提出された下記の資料および施工試験の立会試験により性能証明を行った。

資料 1：ニューバースパイルⅡ工法 性能証明のための説明資料

資料 2：ニューバースパイルⅡ工法 設計・製造・施工基準

資料 3：载荷試験資料

資料 4：更新資料

資料 1 には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。

資料 2 は、本技術の設計・製造・施工基準であり、設計フロー、支持力算定式などの設計方法の他、使用材料、補強材の製造方法および品質管理方法、施工方法および施工管理方法が示されている。

資料 3 には、資料 1 で用いた個々の载荷試験結果報告書や立会施工試験報告書などが取りまとめられている。

資料 4 には、施工実績や運用体制の維持状況などがまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、単杭状の補強材の鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「ニューバースパイルⅡ工法 設計・製造・施工基準」に従って設計・施工された補強材の許容支持力を定める際に必要な地盤で決まる極限支持力は、同基準に定めるスクリュウウェイト貫入試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。